

表6. 代表的な先天異常の薬剤使用状況
そけいヘルニア(12名)

薬剤コード (5ケタ)	薬品名	妊 娠 期 間		
		前 期	中 期	後 期
213 EG	利尿剤(ヒドロクロチアジド)	1		2
213 IH	利尿剤(フロセミド)			2
214 IH	血圧降下剤(重酒石酸・ベントリニウム)			1
214 JI	血圧降下剤(配合剤)			1
219 IQ	ズファジラン			1
222 XX	鎮咳祛痰剤			
312 AB	ビタミンB ₁ 剤(塩酸チアミン)		1	
313 DB	ビタミンB剤(リン酸ピリドキサル)	1		
314 AA	アスコルビン酸		1	
318 AE	ミネラル等添加総合ビタミン剤		1	
319 AA	その他のビタミン剤(マミゲン末)		1	
322 CK	無機質製剤(硫酸鉄)		1	
323 AA	ブドー糖製剤		1	
393 AB	チオ硫酸ナトリウム		1	
395 AD	トリプシン製剤			1
621 XX	抗生物質	1		
XXXX1				1

B - 4. 黄疸の発現状況

神奈川県立栄養短期大学

須 川 豊

厚生省地域保健課

湯 沢 布 矢 子

双胎児の黄疸について単胎児と比較した。しかし双胎児は数が少ないので、観察項目によっては、単胎児と合算して検討したものもある。

1 黄疸の発現

表1に示すように、記入のあるもののみで、単胎児は98.9%が発現しており、双胎児は多少低率のように見える。

2 黄疸発現の初日

表2に示すように、単胎児では、80%近くが、

2日目と3日目で、双胎児では、3日目が最も多く、単胎児の2日目とくらべて1日おそいようにみえる。

3 総ビリルビン値

測定され記載されているものは、単胎児2,945人、双胎児48人で、その値の分布は表3に示すようである。

9mg/dℓ以下が、単胎児では43.0%をしめる1,265人であるのにくらべて、双胎児は28人で、58.3%をしめている。

また、総ビリルビン値の測定日をみると、双方とも3日目から7日目頃にかけて測定されているものが多く、モードは、ともに4日目である。

測定日別に総ビリルビン値の平均値を計算してみたが、双方とも測定日のおそいものほど、値が高いようにみえる。

4. ABO式血液型の母児の適合不適合群の比較

Rh型は測定数が少ないので、ABO式のみについて、母児双方の判明しているものの組み合わせの数をみると表4のようである。

全組数は5,932組で、そのうち3胎児2人をふくめて多胎児は74組であった。

児の総ビリルビン値の 20mg/dl 以上を示した人数を、組み合わせ別にあげているが、総数71人で、表5と比較参照されたい。

この血液型の組み合わせで、黄疸の発現状況をみると、単胎児では、適合群で最も多く発現した日は3日目(38.8%)で、不適合群では、2日目(40.2%)となっており、不適合群が多少早く現われるようにみえる。また双胎児では、適合群は3日目、不適合群は4日目となっている。

総ビリルビン値を、単胎児と双胎児別に、母児の血液型適合群と不適合群にわけて、その分布をみたのが表5である。

双胎児は数が少ないので何ともいえないが、単胎児では、不適合群に高い値のものが多くみえる。

母児の血液型の組み合わせの判明しているもので、交換輸血やブルーライト照射を実施したものとしないものを比較してみると表6のようである。

実施したものの総数は74人であって、そのうち交換輸血は17人、ブルーライト照射は56人、その両方の処置が行われたもの1人である。

これらの措置を実施しないものに対する実施したものの率をみると、単胎児、双胎児ともに、不適合群に多いようである。

5. 総ビリルビン値が 20mg/dl 以上あったケースについて

表3に示したように、総ビリルビン値の測定記載のあるものの5.9%にあたる147人は、総ビ

リルビン値が 20mg/dl 以上であった。このなかでは、双胎児は男女各1人の2人のみであった。

この147人について各種の条件をみると次のようである。

男児 89人 女児 58人

母児の血液型の組み合わせ数(表4参照)

母 経産婦66人 初産婦81人

母に妊娠中の浮腫のあったもの 42人

妊娠中の母に出血や腹痛のあったもの 36人

何らかの先天異常のある児 40人

交換輸血を実施したもの 15人

ブルーライト照射をしたもの 25人

なお交換輸血を実施した15人の総ビリルビン値の平均値は 27.6mg/dl で、ブルーライト照射の25人の平均値は 21.1mg/dl であった。

総ビリルビン値 20mg/dl 以上で、母児血液型の判明しているケースは71人(表4参照)であるが、相手の血液型は判明しなくとも、不適合にならない児O型、母AB型で、 20mg/dl 以上の児が7人あったので、この両者を合算した78人について、総ビリルビン値の平均値を計算してみた。

そのうち交換輸血を実施したもの13人、ブルーライト照射を行ったもの20人あったので、これらの各群の総ビリルビン値を示したのが表7である。

全数の平均でも、母児血液型の不適合群が高値で、交換輸血を実施したケースは、その差が大きい。

表8は、分娩様式をみたのであるが、総ビリルビン値 20mg/dl 以上を示した群と、交換輸血やブルーライト照射をうけた群と比較してみたのである。

自然分娩が多いのは当然であるが、交換輸血群は、自然分娩が少なく、吸引その他の措置が、高率であるようにみえる。

6. 交換輸血やブルーライト照射をうけたケースについて

交換輸血の行われた児20人、ブルーライト照射は75人、その両措置の行われたもの1人で、計96人に、このような措置が行われている。

このうち、両方の措置が行われた1人の総ビリ

ルビン値は 14.7mg/dl であるが、その測定日は出生日で、黄疸の消退は 12 日目と記録されている。この母は、3 回の人工流産につづいて、死産 1、早産で出生後 4 日目死亡児を出産した前歴がある。また血液型は O-Rh (-) で、この児は O-Rh (+) であったので、両方の措置が行われたものと思う。

全対象児のうち、交換輸血とブルーライト照射をうけたものの総ビリルビン値の平均をみると、

表 9 の如く、交換輸血をうけたものは、平均 24.7mg/dl 、母児血液型の適合群よりも不適合群の方が、かなり高い値を示している。これに反し、ブルーライト照射群は、反対の数字を示している。またブルーライト群の平均値は 17.4mg/dl であって、交換輸血をうけたものの平均値より、かなり低い値である。

なお表 9 では、双胎児は 2 人だけであって、総ビリルビン値は 20mg/dl と 17mg/dl である。

表 1. 黄疸の発現

黄疸	単胎児	双胎児
発現したもの	12,988 (98.9%)	162 (96.4%)
発現しないもの	140 (1.1%)	6 (3.6%)
記入なし	1,406	27
計	14,534	195

表 2. 黄疸の発現日

発現日	単胎児	双胎児
1 日目	472 (3.6%)	5 (3.1%)
2 日目	5,256 (40.5%)	50 (30.9%)
3 日目	4,850 (37.3%)	65 (40.1%)
4日～8日目	2,402 (18.5%)	42 (25.9%)
9 日以上	8 (0.1%)	0
計	12,988 (100.0%)	162 (100.0%)

表 3. 総ビリルビン値 mg/dl

総ビリルビン値	単胎児	双胎児
9mg/dl 以下	1,265	28
10～14	981	14
15～19	554	4
20～24	119	1
25～29	18	—
30～34	5	—
35 以上	3	1
計	2,945	48

表4. 母児の血液型の組み合わせ数

	母児の血液型組合せ	組数	%	うち多胎児	総ビリルビン値20mg/dl以上のもの
適合群	A B-A B	130	2.2	2	—
	A - A	1,301	21.9	13	10
	B - B	640	10.8	15	5
	O - O	1,016	17.1	14	6
	A B-A	242	4.1	—	3
	A B-B	211	3.6	1	3
	A - O	523	8.8	6	4
	B - O	332	5.6	4	9
不適合群	A - A B	207	3.5	3	2
	A - B	144	2.4	2	1
	B - A B	167	2.8	2	2
	B - A	168	2.8	3	2
	O - A	534	9.0	7	12
	O - B	317	5.3	2	12
計		5,932	100.0	74	71

注 B-Bに3胎児2人あり

表5. 総ビリルビン値mg/dl (血液型の適合不適合別)

総ビリルビン値	単胎児		双胎児	
	適合群	不適合群	適合群	不適合群
9mg/dl以下	602(52.9) [%]	228(47.0) [%]	6(46.2) [%]	10(83.3) [%]
10~14	334(29.4)	148(30.5)	5(38.5)	1(8.3)
15~19	162(14.2)	78(16.1)	1(7.7)	1(8.3)
20~24	34(3.0)	22(4.5)	1(7.7)	
25~29	3(0.3)	5(1.0)		
30~34	1(0.1)	2(0.4)		
35以上	1(0.1)	2(0.4)		
計	1,137(100.0)	485(100.0)	13(100.0)	12(100.0)

表6. 交換輸血, ブルーライト照射の実施

	血液型	実施しない	実施	実施/不実施
単胎	適合群	3,373	45	1.3
	不適合群	1,169	25	2.1
双胎	適合群	40	1	2.5
	不適合群	13	3	23.1

表7. 総ビリルビン値 $20\text{mg}/\text{d}\ell$ 以上を示したもので、交換輸血やブルーライト照射を行ったケースの総ビリルビン値の平均値

	20mg/dℓ以上の全数		交換輸血		ブルーライト照射	
	人数	総ビリルビン値	人数	総ビリルビン値	人数	総ビリルビン値
適合群	47	22.7	5	26.4	13	21.7
不適合群	31	23.9	8	29.9	7	20.1

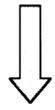
注(1) 適合、不適合の不明のもの69人
 (2) 交換輸血、ブルーライト照射実施しないもの35人、不明10人あり。

表8. 3グループの分娩様式

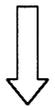
分娩様式	総ビリルビン値 20mg/dℓ以上のもの		交換輸血をうけたもの		ブルーライト照射をうけたもの	
	人数	%	人数	%	人数	%
自然	96	65.3	11	55.0	57	76.0
吸引	26	17.7	4	20.0	10	13.3
骨盤位	18	12.2	3	15.0	4	5.3
帝切	6	4.1	2	10.0	3	4.0
不明	1	0.7	—	—	1	1.3
計	147	100.0	20	100.0	75	100.0

表9. 交換輸血などをうけた児の総ビリルビン値の平均値 (mg/dℓ)

母児血液型	交換輸血		ブルーライト照射	
	人数	総ビリルビン値	人数	総ビリルビン値
適合群	9	22.8	59	21.8
不適合群	11	26.4	16	15.9
計	20	24.7	75	17.4



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



双胎児の黄疸について単胎児と比較した。しかし双胎児は数が少ないので、観察項目によっては、単胎児と合算して検討したものもある。